

「グリコ。」

登場人物

エンタ（34） 芸人

ヨコチ（34） 警官

イナツ（34） 弁護士

ケン（34） 家具職人

○ 小山稲荷神社・階段（夕）

エンタ（34）とヨコチ（34）とイ  
ナツ（34）とケン（34）、階段の別々  
の段に立っている。

全員喪服。

位置は上からヨコチ・イナツ・ケン・

エンタの順。

エンタ「グ。リ。コ」

エンタ、ケンと並ぶ。

エンタ「あのバイク、ヨコチの？ めっちゃ

地獄の軍団と戦いそうだけど」

ヨコチ「限定モデル。やっぱいいよな」

イナツ「いくらくらいすんの？」

ケン「イナツはすぐそういうこと聞く」

イナツ「だって気になんじゃん」

ヨコチ「それなりだよ。同じ正義の味方とし

て永遠の憧れだからな。リスペクト！」

エンタ「お巡りさんがあれで来たら引くわ。

なつみはいいって言ったの？」

ヨコチ「え」

ケン「エンタ」  
エンタ「ああ。ごめん」  
イナツ「いいのか？ お通夜の準備は」  
ヨコチ「あー。うーん。正直。実感ないんだ  
わ。なつみが死んだって言われても」  
ケン「だよね」  
イナツ「役所とか書類の手続き系で面倒なこ  
とあつたらオレやるから」  
ヨコチ「あー。うん」  
エンタ「イナツは大丈夫なのか？ 仕事」  
イナツ「顧問弁護士が忙しい会社はやばい」  
エンタ「そーなんだ」  
ヨコチ「あ！ 鳩！ バイク！ フン！」  
ヨコチ、階段を駆け下りていく。  
エンタ「ヨコチー。離れたから下からなー」  
ヨコチ「ういー」  
ケン「思ったより元気そうよかった」  
エンタ「ん？ ああ」  
ケン「僕はガタガタになっちゃったから」  
イナツ「オレがFXしくじったときくらいな」

エンタ「たとえまで金かよ」

ケン「実感ないってのはわかるかな。ウチは。令ちゃんは長いこと入院してたから」

エンタ「覚悟ができた？」

ケン「それでもキツかった。なっちゃんの場合。あの遺書っていうか。つぶやき」

イナツ「最近と同じことを繰り返す単調で退屈な毎日の中で、少しずつ自分がすり減っていくように感じていたんです」

エンタ「つらいな」

ケン「なっちゃん。主婦の鑑でさ。いっぱいチラシ持ってた。今日はここが安い。ここがタイムセールだからこう回ってる」

エンタ「めっちゃアクティブ」

ケン「節約家だったしね。服とか化粧とかも全然だった」

エンタ「ふーん」

ケン「あ。また先生やりたいたって言った」  
エンタ「あー。そーいや昔。教師は一生できるからいいって言ってたわ」

ケン「作文の賞とかもらってたもんね。でも  
ヨコチが家にいて欲しいって」  
エンタ「かー。愛だねえ。愛なのかそれ？」  
イナツ「仲いいな。なつみとケン」  
ケン「ヨコチとなつみ。ウチの家具使ってく  
れてたから」  
イナツ「ああ。あの高いやつな」  
ケン「何代も使えるやつ」  
イナツ「買い替えづらいやつ」  
ケン「唯一無二のやつ」  
エンタ「ケンカすんな。今日オレらは笑顔」  
ケン「ごめん」  
イナツ「悪い。あ。エンタ。出番なんじゃね？  
芸人としてさ」  
エンタ「できるか。通夜の晩だぞ」  
ケン「令ちゃんが死んじゃったときのエンタ。  
酷かったよね。サラマンダー」  
イナツ「え。あれやったの？ あの3周くら  
い回っても笑えないやつ」  
エンタ「うっせ。悪かったよ」

ケン「でも。愛子が笑った。それで。ちよつと救われた」

エンタ「子どもにはウケんだよ。あれ」

イナツ「子どもっていうか愛子ちゃんあの頃」

ケン「2歳」

イナツ「絶対意味わかってないって」

エンタ「うっせ。笑わせたもん勝ちだ」

ヨコチ「行くぞー。じゃんけん」

エンタとヨコチ、パーで勝つ。

エンタ・ヨコチ「パ。イ。ナ。ツ。プ。ル」

エンタ・イナツ・ヨコチ・ケンの順。

エンタ「ほい。じゃんけん」

ヨコチ、チヨキで勝つ。

ヨコチ「チ。ヨ。コ。レ。イ。ト」

ヨコチとイナツ、並ぶ。

ヨコチ「なつみ。なにしてたんだろうな」

イナツ「え」

ヨコチ「いなくなっただけから見つかるとか」

日間。どこで。何してたんだろうな」

ケン「そういうのは。警察とか」

ヨコチ「なつみは自殺だった。警察は他の事  
案で手一杯だ。そこまで調べない」

イナツ「それは」

ヨコチ「じゃんけん」

ヨコチとケン、グーで勝つ。

ヨコチ・ケン「グ。リ。コ」

エンタ・ヨコチ・イナツ・ケンの順。

ヨコチ「どこで。誰と。何してたんだろうな」

エンタ「だれと」

ケン「誰かと会ってたってこと？」

ヨコチ、スマートフォンを取り出す。

ヨコチ「なつみのだ。いなくなつた日。誰か  
と電話してる」

エンタ「だれかって。表示出るだろ」

ヨコチ「番号だけなんだよ」

ケン「宅配便の人からとかなんじゃ」

ヨコチ「そうか。かけてみればいいか」

携帯電話のバイブ音。

ヨコチ「出るよ」

携帯電話のバイブ音。

イナツ、スマートフォンを取り出す。  
携帯電話のバイブ音、止まる。  
イナツ「予定が合わなくて会えてない」  
ヨコチ「なつみ。ネイルしてたんだよ」  
ケン「ネイル」  
イナツ「そりゃネイルくらいするだろ」  
エンタ「変だな」  
イナツ「え」  
エンタ「なつみは普段。化粧してないって」  
ケン「うん」  
イナツ「いや。たまにはするだろ。明るい色  
で気分上げたい、とかさ」  
ヨコチ「なんで色まで知ってんだよ」  
イナツ「いや。それは」  
ヨコチ「会ってないんだろ」  
イナツ「だから」  
ヨコチ、拳銃を出し、銃口をイナツに  
向ける。  
ヨコチ「浮気。してたのか」  
エンタ「ヨコチ。やめろ」

イナツ「ああ」

ヨコチ「はぁ？」

イナツ「オレとなつみは愛し合ってた」

ヨコチ「ふざけんな！」

ヨコチ、撃鉄を倒す。

イナツ、微笑む。

エンタ「え」

ヨコチ、引き金に指をかける。

銃声。

拳銃、ケンの足元に落ちる。

エンタ、ヨコチを抑え込んでいる。

ヨコチ「エンタ。なにすんだよ」

エンタ「これが2人の狙いなんだよ」

ヨコチ「え」

エンタ「ヨコチを巻き込んだ。心中だ」

ヨコチ「しんじゆう」

エンタ「なつみが自殺する。で。ケイタイ見

てイナツとなつみの浮気知って、逆上した

ヨコチがイナツを殺す」

ヨコチ「なんで」

エンタ「これは。復讐だ」

ヨコチ「復讐？ エンタ。なに言ってる」

エンタ「経済DV。だろ」

ケン「経済DV」

エンタ「化粧っ気もなくスーパーをはしごする。仕事に出させない。そのくせ自分はバイクを買う。経済DVの典型だ」

ヨコチ「違う。オレはなつみを愛してる」

イナツ「なにが愛だ。ふざけるな。1年前。久しぶりに見かけたなつみは、オレの知ってるなつみじゃなかった」

ヨコチ「1年前。そんな前から」

イナツ「そこかよ」

ヨコチ「そこだよ。なつみはオレの」

イナツ「オレの？ なつみはモノじゃない。耐えてた。泣いてた。疲れてた」

エンタ「はじめは弁護士として相談に乗ってたんだらうけど。そのうちに」

イナツ「ああ」

ヨコチ「ふざけやがって」

エンタ「つぶやき。あれが最後じゃないだろ」  
ヨコチ「ああ？」

エンタ「教師だった。作文で賞まで獲ったな  
つみにしちゃ、尻切れだ。続きがある」

エンタ、ヨコチからスマートフォンを  
取る。

エンタ「でも。私は幸せを見つけた。こうい  
うやり方だけど。これが私の幸せ」

ヨコチ「帰ったら誰かいる。それって。幸せ  
だろ？　なあ？」

イナツ「そりゃいるさ。縛ってるんだから」  
ケン「唯一無二の相手だろ」

ケン、拳銃を拾う。  
エンタ「けん？」

ケン「唯一無二の相手だろ。大事にしろよ」  
ケン、拳銃をヨコチに突き付ける。

エンタ「ケン。やめろ！」  
ケン「うおおおおおおおおお！」

銃声。

へおわり